

## 平成 30 年 1 月の解説（週間天気予報）

### 【1月の天候状況】

上旬は、日本付近を低気圧が頻繁に通過し、北日本や東日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多く、東日本太平洋側や西日本でもまとまった雨となった日がありました。また、北日本では暖かい空気が流れ込みやすく、寒気の影響を受けにくかったため、気温がかなり高くなりました。9 日からは冬型の気圧配置が強まり、日本付近は西ほど強い寒気が流れ込んだため、沖縄・奄美では気温が平年を大きく下回りました。

中旬の前半は、強い冬型の気圧配置となり、西日本を中心に強い寒気が流れ込みました。東日本日本海側を中心に大雪となりました。中旬の後半は移動性高気圧に覆われる日が多く、全国的に晴れて、気温が高い日が多くなり、西日本中心に気温の変動が大きくなりました。

下旬は、22 日から 23 日にかけて低気圧が本州の南岸沿いを発達しながら通過したため、関東甲信地方や東北太平洋側では大雪となりました。その後非常に強い寒気が日本付近に流れ込み、東・西日本を中心に気温が平年を大きく下回りました。寒気の流入後は日本海側では雪の日が続き、暴風雪や大雪となったところもありました。北日本日本海側の旬間日照時間は平年よりもかなり少なくなりました。太平洋側では晴れの日が多くなりましたが、雪雲が流れ込み積雪となるところもありました。沖縄・奄美では低気圧や寒気の影響により、曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、東・西日本で低く、北日本と沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本、沖縄・奄美で多く、北・東日本太平洋側では平年並でした。月間日照時間は、北・東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった一方、東・西日本太平洋側で多く、北日本太平洋側と西日本日本海側では平年並でした。降雪の深さ月合計は東日本と西日本日本海側で多くなりましたが、北日本日本海側で少なく、北・西日本太平洋側では平年並でした。月最深積雪は、多いところが多くなりました。

### 【1月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値<sup>（注）</sup>より 4 ポイント高い 78%でした。各地方の適中率は、沖縄地方以外の全ての地方で例年値を上回り、特に近畿地方では 9 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.9 で、すべての地方で予報誤差は例年値以下となりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.7 で、すべての地方で予報誤差は例年を下回りました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【3月の週間天気予報の利用にあたって】

3 月は各地方とも次第に暖かくなってきますが、低気圧が接近すると南から暖かい風が吹き込んで気温が上がり、通過後は北からの冷たい風が吹き気温が下がるなど、気温が大きく変動しやすい時期です。4 月から 5 月頃のような暖かさから一転して 1 月から 2 月頃の寒さとなることもあります。週間天気予報の利用にあたっては、天気とともに気温の変化にも留意して下さい。